

## 庁議 議事概要

- 1 日 時 令和3年5月12日（水） 9時30分～10時10分
- 2 場 所 第一会議室
- 3 出席者 市長、副市長、病院事業管理者、教育長、局長（水道局長含む）、区長、会計管理者、病院局次長、教育次長、市長公室長、総合政策部長  
（一部出席者はWeb会議システムで参加）
- 4 議 題 千葉市都市計画見直しの基本方針（案）について

### [決定事項]

千葉市都市計画見直しの基本方針（案）を別紙のとおり決定する。

都市局長 ～資料に沿って説明～

(質問・意見等)

中央区長 目標のひとつに、「買い物や用事」と限定的な記載があるが、次期基本計画の検討の中ではもう少し緩い表現にしている。限定的な表現にした意図はあるのか。

都市局長 限定したつもりはなく、様々な目的を含むものだと認識している。次期基本計画との整合性を図る必要があれば、検討していきたい。

市長 表現の調整が必要であれば検討すること。

財政局長 今回は個別具体的話はないが、今後、財政面の検討が出てきた際は、財政局と協議をしてほしい。

市民局長 見直し方針の考え方や理念、目標など、全体的に都市デザインの発想を用いていると理解しているが、都市デザインに関する協議の仕組みを検討するとある点について、これは、その中でも特に、という部分であるため、具体的なデザイン調整の仕組みを取り入れるという理解でいいか。

都市局長 また、課題の整理において、「みどり」にデザイン調整の記載がある。これは、これまで取り入れてなかった概念を、課題整理の中で、他に記載する場所がなく、何となく「みどり」に入れたのか、それともここに入れた理由があるのか。

都市局長 都市デザインの取組み自体は広く行うものだが、デザイン調整の仕組みについては、景観条例など、制度に取り込める部分は取り組んでいく。

その際に、対象も議論することになり、大規模なものだったり、都心部などのエリア的に重要な地域であったり、その地域ごとに要件を定めて重要なものを限定して、都市デザインの調整をやることを考えている。現在、試験的に事業者と調整しながら方法を検討しているところである。

「みどり」の中に景観が含まれており、その中で景観法の届け出手続きなどの関係で、さらに積極的に関わるということで、「みどり」の中にデザイン調整の

総務局長

記載をした。コンパクトシティに入れたほうがいいという検討もあった。  
都市づくりにおける課題整理において、公園ストックの老朽化やそれに伴う魅力の低下に対応するため、長寿命化と公園空間の積極的活用が必要とある。  
都市公園が多い千葉市では、公園空間の利用が市民の千葉市らしさみたいなどに影響すると思う。公園の魅力向上のために、従来の概念に捕らわれずに、物事を考え、その中で法律の改正が必要であれば協力したい。  
また、駐車場の付置義務について、50年間見直しが行われなかった中で、スマートなまちづくりやウォークアブルという中で、駅前のホテルに何十台もの駐車場が必要なのかと疑問がある。歩ける空間を目指すなかで、見直しが必要だと思っているが、駐車場付置義務の改正の方向性は、緩やかになるのか、厳しくなるのか。

都市局長

公園が古くなると、周りの樹木が生い茂ったりして、どうしても公園がまちに開かれていない状態になってしまうので、しっかり取り組んでいきたい。  
関連計画としては、緑の水辺のマスタープランを見直す際に、具体的な施策を落とし込んでいきたい。そのうえで、個別案件において、法律改正や規制緩和を求めることがでてくれば、しっかり協力をいただきながら、進めたいと思う。  
駐車場の付置義務について、緩めることについても検討が必要と考えている。  
建物の建替え時期に、必要以上の基準を求めており、本来、施設として必要な用途に床が使えてないというのが現状である。コロナで難航しているが、実態を把握するためのデータ収集にあたっている。

市長

そのほか、インセンティブを持たせることを検討している。例えば、公共交通の便がいい立地であれば、規制を緩めるということなどを考えている。  
理念における都市の美しさという言葉について、定義はその通りだが、生活感や快適性が伝わってくる言葉がいいと思う。  
理念自体は意欲的でよいと思っている。行政の関与を広げていくことはいい。ただ、美しさという表現だと誤解を招くのではと思っている。

都市局長

デザインの検討会議では、美しさという言葉は、学識経験者からの発言であるほか、都市計画においては、昭和から都市の美という使い方をずっとしてきたので、都市デザインを検討した結果として、まちづくりの成果を表現する言葉として、美しさ・美という言葉を選んだ。

市長

昭和53年に策定した「都市美基本構想」をリスペクトしているところもある。  
情緒に訴え、まちの無駄のあるところも大切にするという考えもあるが、美しさという言葉だと、無駄のない、合理的な、遊びのないまちみたいな印象を受ける。美しさの前に、生活感や、安らぎを連想させる言葉を入れるのはどうだろうか。目標自体は、生活感がすごく感じられて、とてもいい。

鈴木副市長

都市のやさしさというような情緒的な言葉はあると思う。  
都市計画の分野では、都市美という感覚がある。専門でない市民に広く周知することを考えるともう一度、議論したほうがいい。  
これまでの都市デザインの議論の中で、絞られた言葉だと思うが、さらに幅広く色々な意見を聞いていく必要もある。もう一度議論してみることに。

都市局長

再検討する。

ここにふさわしい、という冠を付けた関係で、すこし広がり表現したつもりだったが、美しさという言葉自体に冷たさを感じたということで再検討したい。

市長 都市計画において、美しさという言葉は、どういう場面で使われているのかとか、千葉市の都市計画の歴史における美しいという言葉に何を託してきたのかというところを教えてほしい。

美しいのままとするか、違う言葉にするのか、一言何かを美しさの前に入れるのか、といったところを、もう一度、検討してほしい。美しさの意味について、見る人によってとらえ方が、異なると思っている。

鈴木副市長 実際に、市民が思う美しいという言葉と、都市計画や都市デザインでの意味とちょっと違うように思う。ちょっとしたズレや感覚の違いはある。

そこを埋められる言葉をうまく見つけられたらいい。

市長 内容自体は非常にいいので、うまくそれが市民に伝わる言葉かどうかという観点で、もう一度、検討してほしい。

次に、シビックプライドという用語について、安易にカタカナ用語を用いるべきではないと思うが、「誇りをもつ」という日本語でいう場合との違いは、積極的にまちに関わる気持ちが含まれるという点か。

都市局長 シビックプライドという言葉は、誇りとか愛着、郷土愛と日本語的には使われるが、もともとはイギリスで使われており、シビックという言葉自体に、市民がまちに関わるというニュアンスがある。

日本でも 120 以上の行政で使われてきているが、日本語だけでは表現しきれない部分があるので、カタカナで表現している。

市長 何か能動的な市民の取組を期待するような言葉なのか。

都市局長 郷土愛という眺めているだけや過去の哀愁というイメージが強いが、シビックプライドは、まちをより良くするため、まちづくりに自ら関わっていくということを表現しており、これを表現しようとする、カタカナになってしまう。

市長 シビックプライドについては承知した。

それでは、理念の言葉については、いったん保留、引き続き検討していくこと。それ以外は、基本的な内容については、一部保留付きだが、方針決定とする。

## — 結果 —

本会議の意見等への対応を前提に、方針決定とする。

## 5 照会先

- ・会議の運営等について

総合政策局総合政策部政策調整課

TEL 043 (245) 5056

- ・議題について

都市局都市総務課

TEL 043 (245) 5332